

方もいらっしゃいます。退院時期の来た患者さんが『病院まで通えない』という理由で、入院が長期化したり、専門的治療を断念しなくてもすむように、急性期病院の中に在宅医療部を設置しています。訪問看護により看護や治療の援助を行うだけでなく、異変を的確にとらえ、直接に専門医と相談できることが特徴です。このことは、前述のような問題を抱える患者さん・ご家族にとって、安心して自宅を過ごすうえでとても大切なことだと考えています。

もう一つの特徴として、終末期医療のサポートがあげられます。悪性腫瘍などで、深刻な病状を抱える患者さんも、在宅医療を希望されることがあります。このような患者さんは、実際には自宅での「みとり」を望まれる気持ちと、病状の急変時にすぐ対応ができる入院生活の安心感の間で迷っておられることが多く、さらには家族の介護負担を気遣う気持ちから常に複雑で不安定な心境にいらっしゃいます。入院中から直接患者さんに関わることで、短期間であっても退院を実現させることや、患者さんの病状や心境の変化・家族の介護疲れなどに応じて、すぐに入院に切り替えられることができます。このように、気軽に在宅に踏み切れることも当院在宅医療部の強みだと思います。

ただし、スタッフの数も限られていますので、入院された患者さんで、在宅を希望されるすべての方に応じることは難しく、大半の患者さんは地域の訪問看護ステーションや、ご紹介いただいた診療所の先生に往診をお願いしております。私ども在宅医療部は、病院との緊密なやり取りが必要な

患者さんの在宅医療を担当しております。

■在宅医療部のおもなサービスと医療

患者さん宅へ訪問して行うおもなサービス内容として、日常生活の介護、医師の指示に基づいた医療的処置・看護、認知症の看護、リハビリテーション指導、管理栄養士による栄養相談、医療ソーシャルワーカーによる患者さんやご家族の心理的・社会的・経済的問題や社会保障制度の相談などがあります。そして患者さんを日常的に24時間支えるご家族など、介護者の相談・フォローも大切な仕事です。

医療としては、多岐にわたる診療や処置および指導が求められ、おもな内容として人口肛門・膀胱のパウチ交換、不整脈や内服管理および胸部症状時の指導、急な発熱や痛みの苦痛の対応、胃瘻や人工呼吸器および排便の管理、24時間高カロリー輸液や中心静脈カテーテルの管理、食事や日常生活・動作の管理、外科や婦人科疾患の処置や管理、ターミナルケア(末期がんや老衰などで、延命を目的とせず身体的・精神的苦痛を軽減し、QOL向上のために医療的処置と精神的側面を重視したケア)などがあり、院内診療科全体でかわり対応しています。

2013年度の患者さん宅への訪問実績は、訪問看護、訪問診療、緊急訪問の総合回数は2,089回です。

■在宅医療部の体制は

緊急時に医師や看護師が訪問を迅速に行えるよう移動交通時間を考慮し、当院より直線距離で10km以内にお住まいの方を

対象としています。

担当医師は全員兼務ですが神経内科部長が主になり、もう1名の神経内科医師、血液内科医師1名の計3名と、それぞれの患者さんの主治医が診療を行っています。当院では医師臨床研修病院として「地域保健・医療」の実践的教育から、研修医が訪問する看護師に同行診療しています。

在宅医療実践の中核として現場の全てを担う看護師は、管理者の看護師長と実際に在宅訪問活動を行う専任看護師3名で構成しています。日常的には現時点で24名の患者さん・ご家族宅へ、週間予定表に基づき専用車で伺い、訪問看護を行い、緊急時には駆けつけて対処しています。また、それぞれが専用携帯電話を持ち、患者さんやご家族から直接の緊急時連絡や相談などを受ける365日24時間オンコール体制を敷いています。このことは、患者さんやご家族から「先生や担当者と常に繋がっていただける安心感がある」との声を多くいただいています。

さらに、薬剤師、リハビリテーション療法士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど、院内の他職種のスタッフと連携し、患者さんにとって必要なサービスを提供できるよう協同しています。

入院中から在宅医療期まで院内全体で患者さんの情報を組織的に共有し、現場を担う看護師が能動的に動けることが当院在宅医療部の特長ともいえます。

■在宅医療部としてアピールしたいこと

私たちは、急性期病院の中にある在宅医療部であることから、いつでも医療を必要とする場合は、救急外来での診療、もしくは必要に応じて訪問診療(往診)を行い、病状の変化に対し迅速に対応できる体制にあります。患者さんにとって『今が自宅に帰る時』と医療者が感じた時、患者さんやご家族から「少しの間でも家で過ごしたい」という気持ちが湧いた時は、私たちに声をかけてください。在宅看護とはどのようなものなのか、お話をお聞きしたいという要望でも構いません。どうぞ、お気軽に在宅医療部の扉を叩いてくださいね。



▲名古屋記念病院 在宅医療部の専用車で
今日も患者さん宅に行きます！

